

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	東京都
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	新宿区立早稲田小学校								
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	3	3	3	3	2		17	
児童数	90	89	89	88	88	76		520	24

研究の概要

1. 研究主題

<p>考えて行動する子どもの育成</p> <p>基礎・基本の定着を図る指導の工夫 ～国語・算数～</p>
--

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

<p>全学年・国語 わたしたちは日本語で考え、日本語で表現する。 国語(日本語)における基礎・基本の学力の定着を図ることは、考える力を育成する上で欠かせないと考えた。</p> <p>全学年・算数 算数は、論理的に考える力を育てる上で適切な教科であると考えた。</p>

(2) 年次ごとの計画

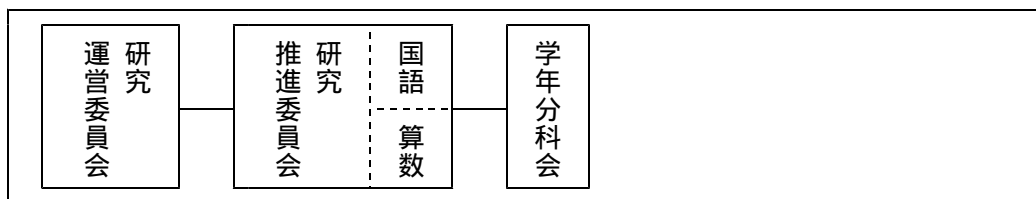
平成14年度	
--------	--

平成15年度	<p>主題「考えて行動する子どもの育成」基礎・基本の定着を図る指導の工夫～国語・算数 研究の見通し(仮説)</p> <p>6年間を見通した上で年間指導計画を立て、目標を明確にして指導と評価の一体化を図ると共に、基礎的基本的な指導事項を意図的計画的に繰り返して指導していけば、一人一人に考えて行動する力がついていこう。</p> <p>研究の内容・方法 指導に生かすための評価テスト作成と実施、授業研究を通して指導法の改善。</p>
--------	--

平成16年度	<p>主題「考えて行動する子どもの育成」基礎・基本の定着を図る指導の工夫～国語・算数 研究の見通し(仮説)・・・平成15年度に同じ</p> <p>研究の内容・方法 基礎・基本の学力の定着を図り、個へ対応するための授業改善の方策を、研究授業を通して実証すること。</p>
--------	--

*平成15年度からの新規校については、平成15、16年度の計画について記入すること。

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

評価テストの作成により目標が明確化され、何を、どこまで、どのように指導するかを明らかにして授業を計画し、実施するようになった。その結果、明らかに改善された指導事項が認められた。(例：国語・説明文の読み取り)
 一斉授業における個に応じた指導方法の工夫・改善について、見通しを持つことができた。
 <例> 国語：学習シートの活用 <算数> 個別指導に生かす教具の工夫

2. 今後の課題

基礎・基本の学力の定着や、個に応じた指導の工夫に関する実証授業を通して、教師の授業力の向上を図ること。
 実態に応じた発展的な学習や補足的な学習による個への対応、教材の開発。
 基礎・基本の学力定着のための日常的な活動（授業以外）の見直し。

学力等把握のための学校としての取組

基礎・基本の学力に関する実態調査問題（評価テスト）の作成と実施、及びその結果の分析と考察。
 目的・・・基礎・基本の学力定着度を把握すると同時に、教師にとっては、目標を明確化して授業に生かす。
 内容・・・<国語>「読むこと」を中心に。
 <算数>「関心・意欲・態度」を中心に。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

平成15年度・・・研究紀要にて中間発表し、紀要や評価問題集を区内各小学校に配布し、成果を普及する。
 平成16年度・・・研究発表及び授業公開、評価問題集や学習シート集の配布（区内各小学校）などにより、成果を普及する。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- | | | | | |
|----------------------|-----------------------------|-------------------|-------------|----------|
| 【新規校・継続校】 | レ15年度からの新規校 | レ14年度からの継続校 | | |
| 【学校規模】 | 6学級以下
レ13～18学級
25学級以上 | 7～12学級
19～24学級 | | |
| 【指導体制】 | 少人数指導
一部教科担任制 | レT・Tによる指導
レその他 | | |
| 【研究教科】 | レ国語
生活
体育 | 社会
音楽
その他 | レ算数
図画工作 | 理科
家庭 |
| 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 | | 有 | レ無 | |